

■令和4年度小中一貫教育推進研究計画書

1 小中一貫教育の取組について

第2期小中一貫教育の取組の教職員への浸透について	・浸透している	・概ね浸透している	・浸透していない
令和4年4月現在	課題 第1期で研究を進めた「富士中ブロック授業スタンダード」は校区の授業実践の流れとして富士中学校区全体で定着した。第2期は「富士中ブロック授業スタンダード」の「まとめる」活動の視点に着目し、「深い学び」につなげる指導を進めていく。		

※計画書の見方

○「進捗状況」について………A:検討中 B:着手済 C:令和3年度から継続 D:令和4年度になって見直し

○「具体的な内容」について…【P】:Plan(計画) 【D】:Do(具体的方策)

【C】:Check(チェックの方策、チェックを行った結果) 【A】:Action(今後の取組)

(1)目指す児童生徒像について

N O	取組内容	進捗状況	具体的な内容
1	児童生徒像の設定 共通する目指す	A B C D	<p>ブロックの共通する児童生徒像</p> <p>○「自立した生き方を身につけた児童生徒」 ～場に応じて、自分で判断する力や協働して解決する力を発揮することができる～ 以上の児童生徒の姿を、小・中で系統的に取り組んでいながら、各校のカリキュラム・マネジメントのつよみを生かし実践していく。</p> <p>学校独自の児童生徒像</p> <p>明るく元気な み・な・みの子</p> <p>① 進んで学び、なりたい自分を描いて努力することができる子 (みずから学ぶ) ② 自ら明るいあいさつができ、人を大切にできる心優しい子 (なかよく活動) ③ 心も体も健やかで粘り強い子 (みなぎる力)</p>
2	資質能力 身につけさせたい	A B C D	<p>ブロックでつけさせたい資質・能力</p> <p>知識・技能</p> <p>A ・主体的に課題に取り組み、目的に合った表現方法で、自分の考えをわかりやすく伝えられる力 思考力・判断力・表現力等</p> <p>B ・身につけた知識・技能を、相互に関連付けながら様々な場面で活用していく力 学びに向かう人間性</p> <p>C ・困難を乗り越え、社会の一員として、地域や社会の中で自分を生かせる力</p> <p>学校でつけさせたい資質・能力</p> <p>学校研究主題 「学びを深めることができる児童の育成 ～つながりの目をもって～」</p>
3	合同研修組織の設置	A B C D	<p>合同研修組織部会名等</p> <p>合同研修組織部会名</p> <p>B ・実務担当者会、まなび部会、こころ部会、つなぎ部会 ※集合研修が行えない場合は、Webex を活用する等によりオンライン会議を行い、富士中ブロック内の連携が一層強固になるような手立てを検討する。</p> <p>C ※また、そのノウハウを広げて小中間のオンライン等による交流の可能性を検討する。</p>

			<p><u>学校独自の部会名等</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修推進委員会・・・主幹教諭、各学年推進委員等</li> <li>・学団部会・・・低・中・高の3つの部会で、それぞれ1つの教科について研究を進める。</li> </ul>
--	--	--	---

(2)小中一貫教育7つの取組

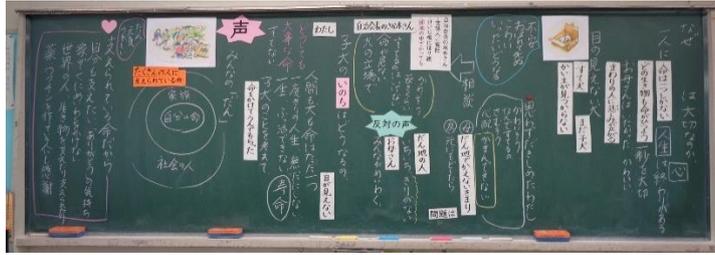
NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D C Aで記入)
4	学習過程の工夫と 授業における80%のポイントの活用 学習形態の工夫	A B C D	<p>下記の3つの手立てを関連付けて記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題の設定</li> <li>・自分の言葉でまとめさせる</li> <li>・意図をもったふり返りを行う</li> </ul> <p><u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u></p> <p><u>「富士中ブロック学習スタンダード」の学習形態</u></p> <p><b>A</b> <u>主体的な学び</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒主体の課題設定のある授業 「～が知りたい」「～を解決したい」</li> </ul> <p><b>B</b> <u>対話的な学び</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対話のある授業 「ハ～そうなんだ～」がある、他への思いや考えに触れる機会を多く持つ</li> </ul> <p><b>C</b> <u>深い学び</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りの時間のある授業 「こんなことがわかった」「〇〇に生かしてみたいなあ～」がある</li> </ul> <p><b>D</b> <u>具体的な取組</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「富士中ブロック学習スタンダード」の推進 「つかむ」「考える(自力解決)」「深める(共同学習)」「まとめる」の学習の流れの定着</li> <li>・学びを深めるための「振り返りシート」の活用</li> <li>・出前授業</li> <li>・小・中の発達段階の系統性を生かした指導実践</li> </ul>

4	(授業)におけるポイントの活用 学習過程の工夫と 学習形態の工夫	<p><b>学校独自の内容・取組</b></p> <p><b>【昨年の課題】</b></p> <p>①「富士中ブロック 授業スタンダード」について、引き続き継続的な取組が必要である。</p> <p>②授業の導入(「わくわく感」)が充実した一方で、児童が学習のまとめと振り返りを行うための時間が不足する傾向。また、自己評価シートに目標、方策、実践を明記して<u>取り組んだ教員は少ない。</u></p> <p>③自分の考えを「書く」力と、「発表する」力に課題が見受けられる。</p> <p>④低学年児童は、学びの基礎となるICTリテラシーについて未学習の児童も多い。</p> <p><b>【P】</b></p> <p>①「富士中ブロック 授業スタンダード」を意識した授業を徹底する</p> <p>②授業の展開において、時間配分の適正化を図り、「まとめ」「振り返り」活動の充実を図るとともに「深い学び」を追求する。</p> <p>③「書く」活動、「発表する」活動に重点を置いた学習を展開する。</p> <p>④授業交換型の教科担任制を導入し、見方・考え方を深める授業改善に取り組む。</p> <p>⑤全児童がタブレットを使用して学習できるようにする。</p> <p><b>【D】</b></p> <p>①「富士中ブロック スタンダード」を各教室に掲示するとともに、校内研修において確認するなどして、全教員に意識化を図る。</p> <p>②1時間の授業の中で「まとめ」「振り返り」活動の時間を確保できるように、研修や校内巡視等の際に繰り返し声掛けをし、周知徹底を図る。</p> <p>③研究推進委員会が中心となり、深い学びにつながるような「まとめ」「振り返り」がされているノートを日頃より収集し、ファイル化を図る。それを使って、日常の教材研究の参考とできるようにするとともに、児童にも提示することで、授業における「まとめ」「振り返り」活動の充実を図る。</p> <p>④業前の全校パワーアップタイムの取組を実施し、短作文の指導、段落の記述に重点を置いた指導や、行事等の校長講話の後に要約を書かせる等の書く活動を継続的に行う。</p> <p>⑤全教員に見方・考え方を意識した授業づくりリーフレットを活用させるとともに、高学年では、授業交換型の教科担任制を実施し、より専門的な視点で教材研究を行い、各教科特有の見方・考え方を意識した授業展開を図る。</p> <p>⑥情報部会が中心となり、ICT ハンドブックを活用するとともに、論理的思考力の育成及び対話的な学びを推進するためのロイロノート活用研修を行い、タブレット端末を活用した学習が日常化するようにする。</p> <p><b>【C】</b></p> <p>①全国学調・県学調・越谷市検証テストの結果を分析し、各取組の成果と課題を検証する。</p> <p>②日頃の校内巡視の際に授業について適宜確認し、指導する。</p> <p>③授業改善・学校生活アンケートの結果をもとに検証する。</p> <p>④2学期末の時点で、低学年児童も含めてタブレット端末による学習が定着しているか、タブレット使用管理簿や実践事例等をもとに検証する。</p>
---	--	---

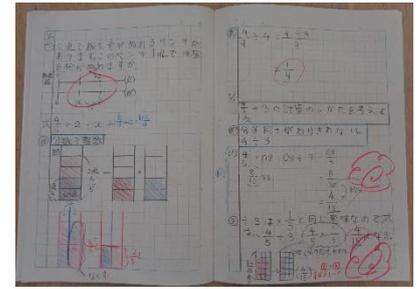
5	板書計画の習慣化とノート指導の統一化	<p>下記の2つの手立てを関連付けて記入してください。</p> <p>・ 構造的な板書をつくる                      ・ 自分の考えが書かれたノートをつくらせる</p>
		<p><u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u></p> <p>・ 児童生徒自身の思考の変容をつかむことができる、系統的な板書を作る。          ・ 児童生徒が自分の考えをメモしながら、まとめられるようなノートづくりを指導する。</p> <p><u>具体的な取組</u></p> <p>「板書活用の小中統一」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の目標、課題を明示する。</li> <li>・ めあて、学習課題は青線で囲む。</li> <li>・ 習ったことを活用しながら、自分の意見や考えを記入する。</li> <li>・ 図、表、グラフ、式、絵などに自分の考えを文章で記入する。</li> <li>・ 本時のまとめをノートに書き、赤線で囲む。</li> </ul> <p>・ 今日の授業で振り返りを行い、理解したこと等をノートにまとめる。</p> <hr/> <p><u>学校独自の内容・取組</u></p> <p>【<u>昨年の課題</u>】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時を振り返り、本児の学びのポイント(前時との違い)に気づく力が弱い。</li> <li>・ 振り返りで「〇〇がわかった。でも〇〇がわからない」を明確にする力が弱い。</li> <li>・ 問題文の意味理解が弱い。意味理解を深めたうえで、書く活動や話し合いの充実につなげたい。</li> <li>・ 市の検証テストでは、全学年、全教科で、市平均と比較し概ね同等か上回った項目が多いものの、苦手が表れたものもあった。</li> </ul> <p>A</p> <p>【P】</p> <p>B ①「授業改善8つのポイント」に基づき、①学習課題の把握、②計画・方向づけ・見通しをしっかりとらせるように意識化を図る。</p> <p>②「まとめ」と「ふりかえり」を意図的・計画的に行えるよう意識化を図る。</p> <p>③思考の流れがわかる板書の工夫(構造化)と、ノート指導の充実を推進する。</p> <p>④</p> <p>【D】</p> <p>①校内巡視の際に、望ましい板書・ノートの写真を記録し、研修や掲示等で紹介し、啓発を図る。</p> <p>②1時間の授業の中で「まとめ」「振り返り」活動の時間を確保できるように、研修や校内巡視等の際に繰り返し声掛けをし、周知徹底を図る。【NO.4の再掲】</p> <p>③研究推進委員会が中心となり、深い学びにつながるような「まとめ」「振り返り」がされているノートを日頃より収集し、ファイル化を図る。それを使って、日常の教材研究の参考とできるようにするとともに、児童にも提示することで、授業における「まとめ」「振り返り」活動の充実を図る。</p> <p style="text-align: right;">【NO.4の再掲】</p> <p>④富士中ブロック内で、見本となる板書やノートを共有し、教材研究に生かせるようにするとともに、児童にも提示し、参考にできるようにする。</p> <p>⑤校内の相互授業参観の機会を年2回以上行い、まとめと振り返りが適切に行われていたか、チェックシートで確認し意識化を図るとともに、構造的な板書やノート指導について検討できるようにする。</p> <p>⑥特別支援教育の研修を行い、困難を抱える児童支援の観点から授業のユニバーサルデザインについて学び、その視点も踏まえた構造的な板書ができるようにする。</p>

板書計画の習慣化とノート指導の一体化

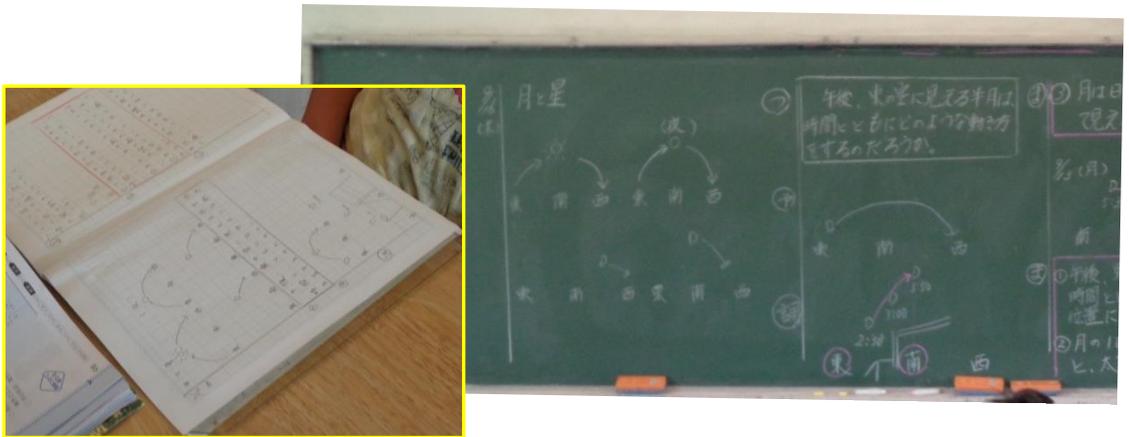
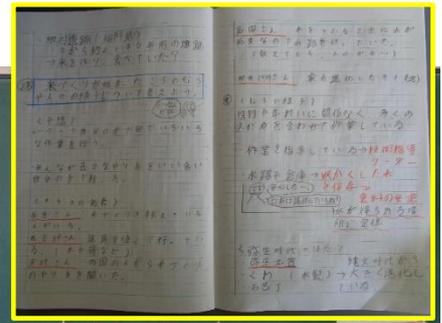
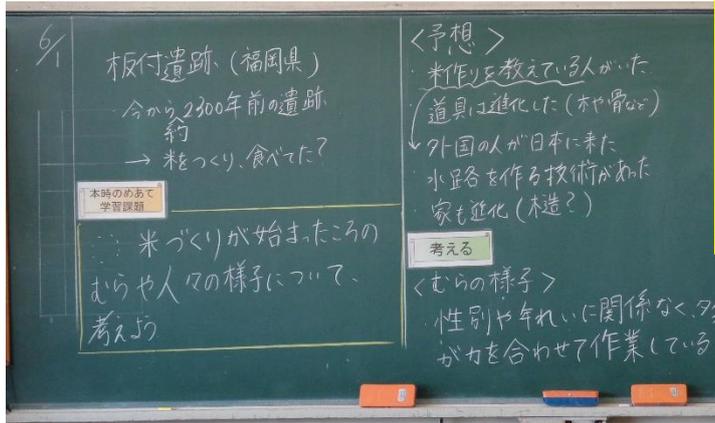
5



望ましい板書やノート指導を記録し、校内で共有化



ノート指導上のポイントと併せて共有



構造的な板書・板書とノートの一体化を推進

【C】

①全国学調・県学調・越谷市検証テストの結果を分析し、各取組の成果と課題を検証する。

【NO.4 の再掲】

②全教員の授業参観をもとに、各教員の取組を確認し、板書やノートの写真記録を使いながら、自己評価シート面談等で具体的に評価、指導をする。

6 生活規律・生活習慣の共有化		<p><u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u></p> <p>○「生活の七つ星」          ☆自ら進んで気持ちのよいあいさつや返事をしよう          ☆時と場に応じた言葉や敬語を使おう          ☆時計を見て、2分前行動をしよう          ☆周囲に気を配り、安全に歩こう          ☆整理整頓をして、常に教室をきれいにしよう          ☆くつを脱ぐときはきれいにそろえよう          ☆清掃分担に責任をもち、黙々と掃除をしよう</p>
		<p><u>学校独自の内容・取組</u></p> <p><b>【昨年の課題】</b>          ・登下校時以外の、平常時の挨拶習慣が弱い。            「<b>進んであいさつや返事をする</b>」にやや課題が残る。          ・無言清掃、2分前行動は定着してきている。            一層推進するためには継続的な取り組みが必要である。          ・感染症対策を講じながらも、生活規律の基本的事項は徹底する必要がある。</p> <p><b>【P】</b>          ①富士中ブロック「生活の七つ星」を徹底し、定着化を図る。          ②模範的児童を表彰する「あいさつ賞」「もくもく賞」等、評価制度を検討する。</p> <p><b>【D】</b>          ①教員が率先して模範を示すよう、生徒指導部会を中心に職員への意識化を図るとともに、放送朝会や掲示等により児童への周知・指導を徹底する。</p> <div data-bbox="406 1120 1157 1624"> </div> <p>②2分前行動、無言清掃の徹底について、根気強く言葉をかけ、積極的に評価するように、生徒指導部会を通じて職員への意識化を図るとともに、「無言清掃週間」を設定し、児童の意識化を図る。          ③帰りの会における「今日のキラキラさん」の発表を活用し、児童の模範的なふるまいを都度、顕彰する。児童相互および教員による評価を工夫して取り組み、意識化、習慣化を図る。</p> <p><b>【C】</b>          ①市の「授業改善・学校生活アンケート」の結果を基に、確認、検証する。          ②生徒指導部会や企画委員会等で、定期的に確認し、成果と課題を分析する。</p>

<p>7</p>	<p>学習規律の共有化</p>	<p><u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u>                  ○「富士中ブロック 授業スタンダード」                  ・学習の約束 10 か条の策定                  ・ステージ1～3までの発達段階に応じて「聞く、話す、発表のやくそく」「板書とノートのやくそく」を確認し実践することで指導に一貫性を持たせる。</p> <hr/> <p><u>学校独自の内容・取組</u>                  【昨年の課題】                  ・「富士中ブロック 授業スタンダード」については継続した取組が必要である。                  ・2分前行動の習慣化は、定着してきている。今後も継続実施。</p> <p>A</p> <p>B [P]                  ①「富士中ブロック 授業スタンダード」の徹底を図る。                  ②タブレット端末使用をルール化し、徹底を図る。</p> <p>◎ C</p> <p>D [D]                  ①「富士中ブロック スタンダード」を各教室に掲示するとともに、校内研修において確認するなどして、全教員に意識化を図る。【NO.4 の再掲】                  ②生徒指導部会を中心に、時計を見て2分前行動ができるよう全教員で取り組む。                  ③情報部会と生徒指導部会が連携し、休み時間を含めたタブレット端末の細かな扱い方について統一し、全教員で共通理解した上で指導する。</p> <p>[C]                  ①「授業改善・学校生活アンケート」の結果を基に確認・検証する。                  ②生徒指導部会、企画委員会で定期的に確認・検証する。</p>
<p>8</p>	<p>家庭学習の統一化 (家庭との連携)</p>	<p><u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u>                  ○「富士中ブロック 授業スタンダード」家庭学習の手引きの活用                  家庭学習時間＝学年×1 時間以上(小学校学年×10分)を共通の目標として継続して取り組む。</p> <hr/> <p><u>学校独自の内容・取組</u>                  【昨年の課題】                  ・家庭学習を積極的に行う習慣を推進する必要がある。                  本校児童は家庭での学習・読書の時間は、比較的に多い傾向がある。今後も、家庭や中学校と連携しながら、充実させていく取り組みを追求する。                  ・タブレット端末の持ち帰りの際は、際限なく使用して困る等の課題も指摘された。</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>◎ C [P]                  ①家庭学習に関する目安の提示、または手引きの作成を検討する。                  ②きょうだい関係を視野に入れ、富士中ブロック内で連携して取り組む。</p> <p>D 家庭との協力体制を強固にし、家庭学習の習慣化・意識化をさらに推進する。</p> <p>[D]                  ①学級だより等による、家庭学習の習慣化に向けた情報発信、家庭への協力依頼。                  ②学校の定期テスト期間を意識した「家庭学習強化週間」の実施を検討する。</p> <p>[C]                  ①全国学習状況調査の質問項目の結果を基に確認・検証する。</p>

(3)学力向上のためのブロックオリジナルの取組

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D C Aで記入)
9	各種学力調査の分析	A B C D	<p><u>ブロックでの共通分析結果等</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年に4回、全職員参加の合同研修会を実施している。その中では今後の取組みや各学力検査の結果の分析等を行っている。</li> </ul> <p><u>学校の分析結果</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校児童の全体的な課題として、主述の理解の弱さ、発表の苦手さを共有するとともに、国語科の教科部会を中心に、課題克服の手立てを検討し、研修会の際に周知を図る。</li> <li>・児童が考えを適切にまとめ、自信をもって発表できるように授業づくり8つのポイントをはじめとした実践事例を研修会で共通理解し、取り組むとともに、「まとめ」「振り返り」活動を充実させ着実に深い学びを推進する必要がある。</li> </ul>
10	PTAの交流	A B C D	<p><u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> 3校合同拡大学校運営協議会の実施</p> <p><u>学校独自の内容・取組</u> 【昨年の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の影響により、ブロック合同拡大運営協議会が実施できなかった。</li> <li>学校運営協議会委員からは、各担任は、コロナ禍だからこそその積極的な捉え方をし、ぜひ、肯定的な評価を行い、児童に伝えていくこと等、教育活動上の示唆をいただいた。</li> <li>・昨年度も、保護者と会う機会が少なく、学校の教育活動への理解を深めてもらう機会が少なかった。</li> </ul> <p>【P】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①学校運営協議会、ブロック合同学校運営協議会を実施し、地域やPTAとの連携をしっかりと行う。</li> <li>②コロナ禍の制限下にあっても、保護者との信頼関係を、着実に構築していく。</li> </ol> <p>【D】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①学校運営協議会で小中一貫の取組について協議した内容を、合同学校運営協議会で共有し、改善点を共有する。</li> <li>②日常のPTA活動を通して、連携を深めるとともに、ホームページ、Cityメール、および、学級懇談会等の機会を活用して、情報発信を行う。また、授業参観・懇談会が実施できない場合を想定し、ICTの効果的活用方法を検討する。</li> </ol> <p>【C】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①学校評価、学校関係者評価により、交流の状況と学校の教育活動への理解状況を検証するとともに、新たな課題をさがす。</li> </ol>

11	出前授業の実施	<p><b>ブロックでの共通内容・取組内容など</b></p> <p>○富士中の教員が、学区の小学校に出向き、小学生に対して授業を行う。 昨年度は、理科と美術で実施予定だったが、新型コロナ感染拡大防止のため実施できなかった。</p>
		<p><b>学校独自の内容・取組</b></p> <p><b>【昨年の課題】</b></p> <p>・コロナ禍により、十分に出前授業を行うことは難しかった。</p> <p><b>【P】</b></p> <p>A ①今年度の実施に向けて、富士中学校との連絡調整を行う。 B ②中学校教員による出前授業、中学校での体験授業を通して、「あこがれとしての中学生」を意識化するとともに、中学進学に対する不安解消に努める。</p> <p><b>【D】</b></p> <p>①5年生を対象に出前授業を計画し、実施。感染状況を確かめながら、直接交流ができない場合でも、出前授業の意義を大切にし、直接交流に準ずるかたちでの中学校との交流を検討・実施する。 ②6年生は入学説明会の際に、中学校内での授業体験が行えるよう工夫する。 ③タブレット等ICT機器活用による交流を模索する。 ④動画交流により、6年生児童が中学校進学に期待感がもてるように取り組む。 ⑤中学生が来校しての歯磨き指導(DMF0.3 プロジェクト)の再開も検討する。</p> <p><b>【C】</b></p> <p>①担任による児童への聞き取りをもとに検証する。 ②各種アンケートの結果を参考に検証する。</p>

(4)自己肯定感の高揚への取組

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D C Aで記入)
12	改善・学校生活に関するアンケートの分析 越谷市授業	A B C D	<p><b>ブロックでの共通分析結果等</b></p> <p>研究主題「目の前にある困難を乗り越え、さらにたかみを目指す力の育成」 日ごろの「認める」技術を意識した指導実践だけでなく、「富士中ブロック授業スタンダード」の、授業の振り返りを行うことを通して、児童生徒が自分の成長を毎回の授業で感じられていることが大きいと捉えられる。今後は子供たちが「こんなことがわかった！」と実感が持てる「わくわく感のある授業」の展開を研究していく。</p> <p><b>学校の分析結果</b></p> <p>越谷市授業改善・学校生活に関するアンケートの結果から、南越谷小学校児童の自己肯定感には、伸びがみられる。 教員からの肯定的評価、達成感を実感できる学習活動が学校生活全体を通して増えるように取り組んだ成果である。今後も取組を継続し、さらに児童相互による肯定的評価の機会も大切にし、児童の自己肯定感の高揚につなげていく。</p>

13 高い自己肯定感を授業の中で高める取組		<p><b>ブロックでの共通内容・取組内容など</b></p> <p>○富士中スタンダードの実践による「わかる」が実感できる授業実践                  ◇つかむ ◇考える(自力解決の場合) ◇深める(共同学習の場合) ◇まとめる</p> <p><b>具体的な取組</b></p> <p>◇つかむ                  ・本時の学習のめあてや学習課題を把握させる→板書の工夫、ノート指導</p> <p>◇考える                  ・自分の言葉で考えたことを表現させる →ノートの活用、付箋の活用</p> <p>◇深める                  ・自分でまとめた考えを発表しあうことを通して、友達の意見、考えを聞いて自分の考えと比較させる →ワークシートの活用</p> <p>◇まとめる                  ・本時のめあてや学習課題に沿った振り返りの実施                  →ノート活用、適用問題の実施</p>
		<p><b>学校独自の内容</b></p> <p><b>【昨年の課題】</b></p> <p>・「授業改善・学校生活アンケート」の結果で、<b>児童、教師ともに上昇した</b>。肯定的な評価を積極的に行うとともに、ロイロノートによる学びの充実や、特別支援教育研修等において、成功体験を積み重ねる取り組みの重要性を共通理解した効果等が考えられる。今後検証しながら、計画、実践に取り組む。</p> <p><b>【P】</b></p> <p>A <u>①「8つのポイント」に基づき、「まとめ」「振り返り」活動を充実させ着実に深い学びを推進し、児童が学びの実感・達成感を得られるようにして、児童の自己肯定感を高める取り組みを推進する。</u></p> <p>B <u>②全児童がタブレットを使用して学習できるようにする。調べ学習や、写真・動画撮影による学びの充実、ロイロノートを使用しているプレゼンテーションや課題提出等、積極的な活用を広げる。</u></p> <p>C <b>【D】</b></p> <p>D <u>①1時間の授業の中で「まとめ」「振り返り」活動の時間を確保できるように、研修や校内巡視等の際に繰り返し声掛けをし、周知徹底を図る。【NO.4の再掲】</u></p> <p><u>②研究推進委員会が中心となり、深い学びにつながるような「まとめ」「振り返り」がされているノートを日頃より収集し、ファイル化を図る。それを使って、日常の教材研究の参考とできるようにするとともに、児童にも提示することで、授業における「まとめ」「振り返り」活動の充実を図る。【NO.4の再掲】</u></p> <p><b>【C】</b></p> <p>①越谷市「授業改善・学校生活アンケート」の結果で、前年度を超える。</p> <p>②指答案検討、校内授業研究会における研究協議の際に、「8つのポイント」等に照らし合わせ、効果的な取組が行えたか検証する。</p> <p>③2学期末の時点で、低学年児童も含めてタブレット端末による学習が定着しているか、タブレット使用管理簿や実践事例等をもとに検証する。【NO.4の再掲】</p>

14	自己肯定感を授業以外の場面で高める取組	<p><u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な交流を通じた児童・生徒の自己肯定感の高揚             <ul style="list-style-type: none"> <li>・陸上部による交流会の実施</li> <li>・中学生による夏休み補習授業の補助(赤ペン先生)</li> <li>・小学校運動会の補助等の取組を行いながら、生徒たちの活動を把握・称賛しながら自己肯定感を高めていく。</li> </ul> </li> </ul>
		<p><u>学校独自の内容・取組</u></p> <p><b>【昨年の課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業改善・学校生活アンケート」の自己肯定感にかかる項目は、児童、教師とも上昇した。肯定的な評価を積極的に行うとともに、特別支援教育を推進し、成功体験を積み重ねる取り組みの重要性を共通理解した効果等も考えられる。</li> </ul> <p>A <b>【P】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①特別活動部会等を中心に学級経営の充実の手立てを検討し、児童の自己肯定感の高揚を図る。</li> </ul> <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>②家庭との連携を生かし、児童の自己肯定感の高揚を図る。</li> </ul> <p>◎ <b>【D】</b></p> <p>D</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>②たて割り活動(なかよしタイム)や、委員会活動や各種行事において誰もが役割を担うことを重視した取組をする。</li> <li>③特別活動部会を中心に、富士中ブロック内の取り組み事例を校内で紹介する。学級だよりの有効活用や、手本となる実践等を研修会で紹介する等して、望ましい集団づくりを組織的に推進する。</li> <li>④体育的行事等、学習以外の場面でも児童を顕彰できる取り組みを行う。各種の表彰を校内動画配信で行い、全校児童に見えるかたちで頑張りを顕彰できる機会とする。</li> <li>⑤ことばを大切にされた教育、心の教育を推進し、自己肯定感の高揚を図る。</li> <li>⑥学級通信や日頃の家庭との連携を通して、それぞれの場での児童のがんばりについて情報共有しそれぞれの場で肯定的な評価をすることで自己肯定感の高揚を図る。</li> </ul> <p><b>【C】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①越谷市「授業改善・学校生活アンケート」の結果で、前年度を超える。</li> </ul>

(5)学校間の交流

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D C Aで記入)
15	(行事・学習・作品など) 児童生徒間の交流	A B ◎ D	<p><u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・陸上部による交流会の実施</li> <li>・中学生による夏休み補習授業の補助(赤ペン先生)</li> <li>・小学校運動会の補助</li> <li>・中学生による金管バンド技術指導</li> <li>・美術作品交流</li> <li>・児童会、生徒会の交流によるあいさつ運動</li> <li>・学校だより掲示</li> <li>・3学期に行われる「中学生の話を聞く会」</li> </ul>

<p>15</p>	<p>児童生徒間の交流 (行事・学習・作品など)</p>	<p><b>学校独自の内容</b> 【昨年の課題】 ・小中間の直接交流は実施できなかった。(中学生の来校による(従来型)の歯磨き指導(DMF0.3 プロジェクト)等)。</p> <p><b>[P]</b> ①<u>主幹教諭・情報部会を中心に</u>、直接交流の実施が難しい場合は、他の媒体を利用した手段を検討していく。</p> <p><b>[D]</b> ①ZOOM や Google classroom 等による遠隔交流の可能性を模索する。昨年度は、富士中学校とは動画で交流し、小中間のギャップ軽減に取り組んだ。 ②コロナ以前に実践していたような交流を、代替手段等によって同じ目的に近づけるか検討する。動画データ閲覧によるクラブ・部活発表会(見学会)・相互交流会、中学生の先輩によるアドバイス動画等。手紙やカード、学習成果物や動画データによる小中、小小交流を模索する。 ③コロナ禍の不安や不満に寄り添い、適切な人間関係構築能力を育成できるよう、特別活動に加え教育相談、生徒指導、特別支援教育の担当者とも連携して取り組んでいく。</p> <p><b>[C]</b> ①年度後半に、実際に行えた交流活動を振り返り、検証する。 ②越谷市「授業改善・学校生活アンケート」の結果を参考にする。</p>
<p>16</p>	<p>合同部会、合同研修、相互授業など 教師間の交流</p>	<p><b>ブロックでの共通内容・取組内容など</b> ・合同教科部会の開催 ・本校教諭の小学校への訪問 ・相互授業参観の実施 ・中学校教員の出前授業の実施</p> <p><b>学校独自の内容・取組</b> 【昨年の課題】 合同研修 ・合同研究部会において、第2期に向けて教科指導の重点ポイントを確認し、年間指導計画に落とし込んだ。 ・各校の支援担当訪問の日程を情報共有したが、都合が合わず参観できる教員が少なかった。 相互授業 ・コロナ禍に影響により、実施できなかった。</p> <p><b>A</b></p> <p><b>B</b> <b>[P]</b> ①研究の合同部会を通して、小中の連携を強めていく。 ②相互授業等による交流を通して、それぞれの取組について知り、相互に実践力を高める。</p> <p><b>C</b></p> <p><b>D</b> <b>[D]</b> ①研修主任を中心に、年4回計画されている合同研修会や相互授業を計画的に実施していく。 ②合同研修等、大規模な交流が困難な場合は、実務者会、部会等、小単位での交流を行う。Web 会議等による開催も模索する。 ③電話やメールも活用し、個別のやり取りも積極的に行えるよう、運営委員が各学校で周知していけるように検討する。 ④支援担当訪問等の際は日程を情報交換し、相互に見に行けるよう調整する。</p> <p><b>[C]</b> ①研修主任を中心に、計画した合同部会、合同研修等が行えたか、又は、同等の取組を行うことができたか、年度後半に検証する。 ②相互授業や、それと同等の取組を行うことができたか、同様に検証する。</p>

(6)保護者・地域連携(人材活用、情報発信など)

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 P D C A
17	合同学校運営協議会の実施 及び、学校応援団の積極的活用		<p><b>ブロックでの共通内容・取組内容など</b></p> <p>コミュニティースクール(学校運営協議会)を活かした人材活用及び人材交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各校での運営協議会開催…会議の中で本校だけでなく、富士中学校区の各学校の取組も紹介し、校区全体に対する理解を深める。</li> <li>・3校合同拡大学校運営協議会の実施 …各校の小中一貫教育の取組みについて等の協議を実施する</li> </ul> <hr/> <p><b>学校独自の内容</b></p> <p><b>【昨年の課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の影響により、ブロック合同拡大運営協議会が実施できなかった。</li> <li>・学校ボランティアに多数の登録があるが、活用(依頼)の機会が少なかった。</li> <li>・前年度は、保護者と会う機会が少なく、学校の教育活動への理解を深めてもらう機会が少なかった。</li> </ul> <p><b>A</b></p> <p><b>B</b></p> <p><b>【P】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①学校運営協議会、ブロック合同学校運営協議会を実施し、保護者や地域との連携を行う。</li> <li>②感染対策に配慮しながら、学校応援団を積極的に活用させていただく等により、学校の教育活動への理解浸透を図る。</li> </ul> <p><b>【D】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①学校運営協議会で小中一貫の取組について協議した内容を、合同学校運営協議会で共有し、改善点を共有する。</li> <li>②日常のPTA活動を通して、連携を深める。</li> <li>③ホームページ、Cityメール、および、学級懇談会等の機会を活用して、情報発信を行う。</li> <li>④学校応援団を積極的に活用させていただき、教職員の負担軽減につなげるとともに、保護者や地域の方に理解を深めていただけるようにする。</li> </ul> <p><b>【C】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①学校評価、学校関係者評価により、交流の状況と学校の教育活動への理解状況を検証するとともに、新たな課題をさがす。</li> </ul>

(7)ブロックオリジナル

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 P D C A
18	富士中学校教員による 小学6年生対象の出前授業実施		<p>ブロックでの共通内容・取組内容など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校6年生対象の出前授業の実施・・・小学生の中学校に進学する上での不安を解消するための富士中教員による出前授業を行っている</li> </ul> <p>学校独自の内容</p> <p>【昨年の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍による感染対策により、中学教員による出前授業は行えなかった。</li> <li>・中学校入学説明会の際の体験授業は実施できなかった。</li> <li>・メールや動画を介しての間接的な交流を行うことができた。</li> </ul> <p>【P】</p> <p>A ①感染対策を工夫し、出前授業や体験授業の実施を検討する。</p> <p>B ②円滑な接続を中学進学への不安を軽減し、ギャップ解消につなげる必要がある。</p> <p>③南越谷小学校ステージプランに基づき、各学級・分掌の取り組みを推進する。</p> <p>【D】</p> <p>①富士中ブロック内で連携し、感染症対策に配慮しながら、時期や手段を工夫して出前授業の実施を検討する。</p> <p>②自己評価面談を活用し、ステージプランの流れに基づいた目標を各個人が具体化できるように意見交換し、意識化をはかった。</p> <p>③管理職は校内巡視や面談等により、富士中スタンダードや南越谷小学校ステージプランの流れを各教員が理解し、学級経営や授業内容まで浸透しているか、チェックする。</p> <p>④自己評価面談を活用し、ステージプランの流れに基づいた目標を各個人が具体化できるように意見交換し、意識化をはかった。</p> <p>【C】</p> <p>①年度後半に、出前授業が行えているか確認し、工夫の余地があるか検討する。</p> <p>②南越谷小学校ステージプランに基づき、各ステージの節目に、職員対象の振り返りアンケートを実施し、成果を検証。</p>